



今年9月、「北京大会オリンピックディスタンスエイジグループ選手権」で日本人初の優勝という快挙を成し遂げた伊佐市在住の永田成也さん34歳。

理学療法士として松元病院に勤める永田さんは、2女1男のパパで、その優しい笑顔からは、“鉄人レース”と呼ばれるトライアスロンに挑戦しているとは想像できない。どんな話が聞けるのか。松元病院の一室をお借りして話を聞いた。

※オリンピックディスタンス：オリンピックと同じ競技内容

※エイジ：オリンピックを目指すエリートを除いた部門

肉体の限界を超えさせる力

◆トライアスロンを初めたきっかけ

小さい頃は、どんなスポーツも小学生の頃、父が指導する少年団で水泳と陸上をしていましたが、成績はいつも県大会止まりで全国大会へは行けなかった。悔しい思いを持ちつつ、高校ではバドミントン部に入りました。

バドミントンですか

はい、当時活躍し実績を残していたバドミントン部でした。

トライアスロンとの出会いは

大学時代、友人に誘われて天草のトライアスロン大会を見に行きました。そこで衝撃を受けたんです。レースの迫力、ゴールしたときの感動と選手表情、すべてに魅了され、19歳で始めました。

◆トライアスロンについて

過酷な競技ですよ

そうですね、スイム1.5km、ラン10km、バイク40km。どれかひとつだけではダメなんです。バランスよく鍛える必要がありますし、レース全体の組立ても重要です。そこが面白いんですよ。

練習はどこで

ランとバイクは主に市内ですが、スイムに関しては、屋内プールがないので週2、3回近隣のまちへ通っています。ランとバイクは、ほぼ毎日2回、出勤前と仕事終了後に仲間とトレーニ

ングをしています。
コーチはいるんですか

いいえ、特には……。自分で考えてトレーニングをしています。アドバイスをもらいたい時は、種目ごとにプロの選手や元オリンピック代表選手の知人に相談して自分の知識を磨いています。あとは、大会に出場したとき、選手同士で情報交換しています。

“トライアスロンを教えるコーチ”という人はいないんです。アマチュアですから、全部自分でやらなければいけません。

◆レースについて

9月の北京世界選手権大会では、日本人として初めての優勝、おめでとうございます

ありがとうございます。

レース中はどんなことを考えているんですか

レースの展開を考えて、組立てをしています。

つらくてリタイアしたくなることは

途中でやめたくなることはありませんが、これまでに経験した“乗り越えた時の達成感”が忘れられなくて、それをさせません。

◆永田さんの強さについて

自分の限界ってどこだと思いますか

体力・気力に限界はないと思っています。鍛えるほど、からだは進化するんです。競技をやめるとするならば、家族から「やめて欲しい」と言われたときでしょうか。プロのように環境が整っていないアマチュアにとって、

家族の理解なしでは続けられません。

周囲の理解が必要ということですね

そうですね。家族、友人、職場の皆さんの協力・支えで頑張っています。試合へ早く送り出してくれることもですが、職場からは援助もあり、感謝の気



BIKE



family



持ちでいっぱいです。
遠征費など自己負担で大変でしょう

厳しいですね。でも、職場や理学療法士資格を取得した母校から支援してもらったりして助かっています。結果を残すことで恩返ししたいし、北京大会で優勝した後、自転車メーカー「フェルト（FELT）」からのサポートも受けられるようになりました。

理学療法士という仕事を選んだ理由は

大学卒業後、オリンピックを目指して実業団に入りましたが、挫折や将来への不安などから、会社を退社。次に何をしようかと目標を失いましたが、考えたんです。選手時代、怪我で苦しんだ自分の経験を「理学療法士」になって患者さんのために生かそうと。その結果、素晴らしい職場に恵まれ、ここでもう一度、「トライアスロンに挑戦する」という前向きな気持ちにもなれました。仕事の知識が、自己管理にも役立っていますし、患者さんからの応援も「ちから」になります。

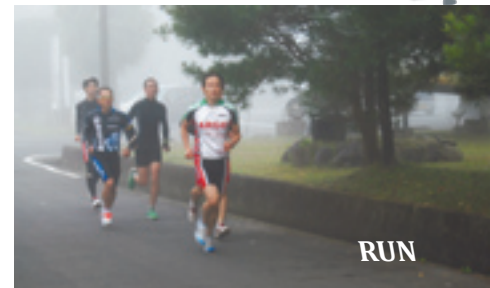
◆上司である、久木山リハビリテーション科長からのコメント

永田さんについて教えてください

人間としてのバランスが素晴らしいです。一時やめていたトライアスロン



松元病院の皆さん



永田さんと一緒に練習に励む仲間たち

に再び挑戦したいと相談を受けた時、「趣味のレベルではなくやりたいんだ」と決意を感じました。最初に自分に相談してくれたことが嬉しかったし、彼が昇っていく姿を見たいと思ったので賛成し、協力しました。

レースを家族で応援に行きましたが、実際のレースの迫力は言葉では言い表せません。正直あの達成感をいつか味わってみたいとも思いました。永田く

プロフィール



永田成也

ながたせいや 34歳 身長173cm
大口市生まれ 妻、2女、1男
熊本工業大学
日本食研 トライアスロン実業団
第一リハビリ専門学校
現在、整形外科松元病院に理学療法士として勤務

んの影響か、職場で自転車に乗る人が増えていて、自分もその一人です。彼は、私たちに誇りです。

◆これからについて 今後の目標は

北京での優勝には満足しています。が、世界大会に照準を合わせていたの、日本の大会での獲得ポイントが若干減ったために、日本アマチュアランキングを3位に落としてしまいました。まだ20代の選手には負けたくないの、もう一度ランキング1位に返り咲きたいと思えます。それと母校での講演会なども予定しているので、後輩たちへ自分の経験を話すことで何か伝えていきたいらと思えます。

(※インタビューの一部を掲載)

インタビューを終えて

インタビューの間、笑顔で丁寧に答えてくれた彼からは、優しさだけではなく、「あきらめない強さ」「感謝の気持ちを忘れない謙虚さ」を感じた。練習を共にしている仲間からの信頼も厚く、練習前に談笑している姿に親近感も持てる。

「伊佐の鉄人」は、世界大会で優勝したあとも、おごることなく身近な存在であることに変わりなかった。

選手としての限界を尋ねたとき、「家族から“やめて欲しい”と言われたときでしょうか」と迷わず即答した「鉄人」は、やはり優しいパパが本業だ。

こんなにも、肉体と精神をバランスよく鍛え上げた「鉄人」が、“伊佐人”であることを誇りに思い、わがまちのみなさんに「伝えること」で、応援していきたい。

昨年の主な成績 (2006年から練習再開)

2010

- 指宿トライアスロン 優勝
- 蒲郡国際トライアスロン (愛知県) 優勝
- 日和佐うみがめトライアスロン (徳島) 優勝
- 忠別湖トライアスロン (北海道) 優勝
- 村上国際トライアスロン (新潟県) 優勝

※この年、日本ランキングチャンピオンに輝き、2011年9月北京世界選手権大会出場権を獲得した。結果は、日本人初の優勝。

